

# 木と町が育む元気な「恵那っ子」

## サミットHR工法シリーズ<sup>35</sup> おさしま二葉こども園

東に恵那山、南に焼山、北に笠置山を臨み、これらを縫うように木曾川、阿木川、矢作川が流れ、中山道大井宿が市街地を横断する。こうした自然と歴史豊かな恵那市(岐阜県)を凝縮したような認定こども園「恵那市立おさしま二葉こども園」が今春、開園する。躯体で採用されたSMB建材(東京都、角柄明彦社長)の木質2方向ラーメン構造「サミットHR工法」が構成する大空間の下、内装の至るところに用いられた県産材に触れ、地域住民の温かな目に見守られながら、元気いっぱい「恵那っ子」が育まれ、巣立っていく。

### 風土模した設計をサミットHR工法で実現

#### 歴史と自然が共存する豊かな市

岐阜県南東部に位置する恵那市は、市街地に中山道六十九次の江戸から46番目の宿場町・大井宿の面影を残し、鎌倉時代の城下町・岩村城やその城下町を抱えるなど、歴史の情にあふれている。歴史と自然とが共存した市でもあり、恵那峡の景勝や大井ダムは全国でも名高い。

2018年には、同市岩村町がNHK連続テレビ小説「半分、青い。」のロケ地となり、主人公の成長を町が登壇人物たちとともに温かく見守った。ロケ地の岩村町だけでなく、同市は子どもを長を力強く育む雰囲気にも溢れている。おさしま二葉こども園が建つ長島町も同様だ。

おさしま二葉こども園は、この地に、老朽化した「二葉こども園」を統合し、零歳児から小学校就学前の子ども240人を定員に新たな園舎としてスタートを切る。



障害物のない開放的な空間で、のびのび遊ぶ(遊戯室)

### SMB建材



園庭を園舎が取り囲む。豊かな山に囲まれた恵那の町をイメージした(こども園全景)

を起源とする歴史や文化。同園には、これらを感じさせる工夫が至るところに配されている。恵那の町を「ぎゅ」と凝縮した「大倉(主査)こども園」となっている。当初は在来軸組での計画も検討されたが、

#### 恵那の町をぎゅっと凝縮

同園のメインゲート越しには笠置山を臨むことができる。笠置山から目を移れば、メインゲートを辿れば、メインゲートが穏やかな稜線を描いている。これは「恵那の人にとってなじみの深い笠置山の稜線を模して形作った」と(同)という。さらに、木調のルーバーやRC壁のリブ型が、宿場の格子を連想させる。

同園の延べ床面積は約2274平方メートル。保育室や遊戯室、調理室、地域交流室と家庭教育教室などを兼ねたサミットHR工法45分準耐火工場の木造平屋建て(1部2階)で、設計は青島設計、元請は大井・恵那特定建設工事共同企業体。3700万円。

同園の設計を手掛けた大倉喜与子青島設計第一設計室主査は「こども園は、子どもたちが初めて家庭から外に出る長い時間を過ごす場所だ。家族以外の人とのかかわり、色んなものに触れ、今後の自立のために社会に出

ていく準備の場となる」と考えている。こうした考えから、同園の設計コンセプトを「みんなの生活の始まりを見守る小さな宿の面影を色濃く残す」とし、同市の街並みを思い起こさせるものとした。

園内に足を踏み入れ、園庭に立てば、園舎の廊下、テラスが同じ高さを考慮すると、柱を大きく取り囲むのピッチや筋違などが、同市の障壁となった。このため、同市の障壁を克服し、2方向ラーメン構造であるサミットHR工法を採用することになった。設計自由度が格段に向上した。

これにより、保育室の軒出しとした。軒高は8・6メートル、最高高さは12・45メートル。内部は天井が高く、開口部も大きく取られたため、広々とした開放感がある空間ができた。子どもたちが木を触れ、手を傷つける恐れもなく、子どもたちが木を思う存分に感じられる施設となった。

春には、元気な子どもたちの声が響き渡り、活気あふれる将来の恵那市を予感させる施設となりそうだ。

### 木の駅プロジェクト発祥の地 市を挙げて木材活用を推進



左から、原田宏明農林部林政課課長補佐、岩谷三好教育委員会事務局教育総務課教育施設係長、大宮隆一建設部都市住宅課建築係長、梅村浩三教育委員会事務局幼児教育課企画官、額高裕同課幼児教育係長

恵那市は市域の約8割近くを森林が占め、森林が木曾川などの豊かな水源域ともなっている。こうしたことから、同市の木材利用の取り組みは早く、2010年に「えなの森林(もり)づくり実施計画」を策定。この1年前には、今では「木の駅プロジェクト」として全国に広がった活動の原点である「笠周木の駅プロジェクト」が発足している。同プロジェクトは、同市が発祥となる。

これは未利用材を搬出・集荷し、地域内でチップや薪、パレットなどとして活用するための仕組みで、各地区に「木の駅」と呼ぶ集荷拠点を設け、持ち込まれた未利用材を地域通貨で買い取る。12年に本格的な運営が始まり、現在では4地域の木の駅で年間1,000立方メートル水準を集荷するという。

先の実施計画にも基づき公共施設の木造化も積極的に推し進め、改築は木造化を基本としている。市内の小学校では、大井小屋内運動場、山岡小校舎、屋内運動場、武並小屋内運動場の4件が木造化され、こども園では14園あるうちの7園が木造になった。おさしまこども園はその7園目となる。

保護者や教員には、木の優しさやぬくもりが感じられるとして、園舎の木造化が受け入れられているという。おさしまこども園は設備面で充実した園舎となり、可変性に対応したものとされた。これを機に同市では、建物の可変性は改築の際に大事な機能として捉えたという。また、同市では改修の場合に、内装木質化を基本方針に、内装材だけでなく家具等でも木材利用を進めている。



これまでこども園に寄せられた意見を設計に反映した

「内部は天井が高く、開口部も大きく取られたため、広々とした開放感がある空間ができた。子どもたちが木を触れ、手を傷つける恐れもなく、子どもたちが木を思う存分に感じられる施設となった。春には、元気な子どもたちの声が響き渡り、活気あふれる将来の恵那市を予感させる施設となりそうだ。」

# 子どもの笑顔が溢れる木造園舎

## 素材を活かした工法革命

SMB建材株式会社  
木構造建築部

東京都港区虎ノ門 2-2-1 JTビル11階  
Tel 03-5573-5300 サミットHR工法